

KSKP

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.29

Threshold

～すれっしょるど～(出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュホールドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です



Drug Addiction Rehabilitation Center

DARC**2022 年 あけましておめでとうございます****新春のお慶びを
申し上げます**

遅くなりましたが、みなさま明けましておめでとうございます。神戸ダルクも5回目のお正月を迎えることができました。去年の正月には、これはなんともならん！と困らせるばかりの仲間が、気がついたら仲間から優しい先行く仲間とリスペクトされていたり、スタッフから、大変なことばかりで愚痴を聞くばかりの時もあれば、仲間がすごく成長したと、興奮して僕に説明するスタッフの高いトーンの言葉を聞くこどもある日々を過ごしていたら5年が過ぎました。

綺麗事ではなく、今年一年は仲間達とスタッフが過ごす時間が非常に貴重だったと思います。その中で、一喜一憂し、交わされる言葉に生かされた一年だったようにも思います。

刑務所から来る手紙にも生かされました。その手紙をどんな想いで書いているか、私たちは魂で感じるができます。神戸を出発点とし、人生を取り戻す仲間と人生を過ごしていくのも悪くない生き方です。本年もよろしくお願いいたします。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18 一郵便物はこちらへ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ インフォメーションセンター

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

共同生活援助(グループホーム) リカバリーホーム TEL078-647-7744 (神戸市須磨区)

姫路アディクションサポートセンター 〒670-0832 兵庫県姫路市双葉町 96 Tel 079-255-5033

智頭リトリートヴィレッジ 〒689-1411 鳥取県八頭郡智頭町八河谷杉の木ランド テニスコート下

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

正月を迎えて 神戸ダルクスタッフ ユウ

コロナ禍で迎えるお正月も今年で二回目。例年通りとまではいきませんが、コロナ前に出来ていたようなことがまた少しずつ出来るようになってきました。初詣で西宮えびす神社に行ったり、その後に西宮ガーデンズの初売りに出掛けたり、残念ながらあの縁日のような屋台の並びはありませんが、それでも正月の街の雰囲気十分に肌で感じることでできる元日となりました。

2日も神戸ダルクのお正月の定番になっている掬星台、摩耶山天上寺、六甲ガーデンテラスを回ったのですが、この六甲ガーデンテラスでのかわら投げ(土でできた素焼きの皿をできるだけ遠くに投げる、という古くからある厄除けの遊び)を楽しみにしていた仲間がいました。去年、病気で突然この世を去った母親が天国で幸せに暮らせることをお願いするのが目的だったようで、かわら投げに想いを込めて勢いよく投げる仲間の姿を見て、彼の回復がこれからもハイヤーパワーと共にあるよう、そっと祈りました。

3日は早朝から平磯海釣り公園にて初釣りをしました。仲間たちは残念ながらボウズです。見事に魚を釣り上げたのは子どもたちのみ！という結果。1年の運試しのような初釣りですから、魚も人を見てるのでしょうか。

さて、ここまで書いてみると平穏無事でのんびりと過ごしたお正月かのように見えますが、実際はダルク。もちろんたくさん問題も起こりました。わたしも思わず声を荒げて怒鳴ってしまう場面もありました。本当は正月くらい...という気持ちもありましたが、共同生活ですので、自助グループのように「変わるまで待つ」というだけでは回らないこともあり、その辺りの見極めがいつも難しく感じます。私がダルクでスタッフや先ゆく仲間にしてもらったことはどんなことだっただろう。この行動の動機はエゴなのか、そうでないのか。正月に関わらずですが、自分の内面、ハイヤーパワーと対話しながら色々なことをやりすすめていく日々です。

そして今年も、NHK 歳末たすけあい助成様、支援者の皆様のおかげで、あたたかい家庭のような雰囲気、正月らしい豪華な食事と、仲間同士の交流の場を持つことができました。最後になりましたが、この場を借りて改めて御礼申し上げます。



初日の出の登山 ポンド

「手荷物、持ってあげようか？」

これまで会話が少なかった仲間から平気そうな顔でそう言ってくれました。

摩耶ケーブル駅から虹の駅に皆で降りた後に歩きだしてから、そう言ってくれた。僕は痛みに耐えながら、右足の装具をつけなおして、7人の仲間と初日の出を見るために登山しました。冷えきった早朝に少し路面凍結しているので、滑らないように神経を使った。「ありがとう！じゃ荷物をよろしくね」そう言って手さげバックをその仲間に渡して持ってもらった。僕はカメラ係なので、カメラのバックだけは右肩にかけて歩き出した。2022年の元旦でした。

天気が曇っていたので、念のためにここで集合写真を撮っておこうと思って、仲間たちに声をかけた。少し「虹の駅」の反対側に空が明るくなっているので記念写真になりました。

ここで少し、僕の自己紹介ですが、僕の名前はポンドです。1995年に日本にきました。タイの人です。約10年前に覚せい剤を覚えて、その過程の中で仕事・家族・人間関係を失ってしまいました。

そして、2018年に取返しのつかない出来事がおきました。再使用による身体障がいでした。一回の薬が止まらなくなり、結局、僕は死のうという思いになり、自分の家に火をつけて、家の2階から飛び降りるはめになりました。運が悪く、そのまま逮捕となり、適切な治療を受けられないまま、複雑骨折した右足の踵と右肩が変形したまま骨が固まってしまいました。刑務所に送られたときは苦しくて、たまりませんでした。絶望の中に絶望的でした。刑期を終了して、2020年に身体障がい者になった僕は社会復帰するどころか、歩くことでさえ、正直、諦めていました。そんな僕を拾ってくれたのは神戸ダルクでした。2020年10月の出所のときでした。

そこから、少し元気になり、今は足に装具をつけて、痛み止めを毎日服用しながら、神戸ダルクで生活を送っています。だから、今回の初日の出を見に行くと聞いたとき、とても嬉しかったです。この人たちと一緒に、どんな事でもできるように思うようになったからです。案の定、僕の登りペースが遅くて、日の出の時間が過ぎてしまっても、先頭に歩いている仲間たちは時々、止まって、僕を待ってくれました。とても気持ちよく登山できました。

そして、やっと頂上につきました。その時点で少し日の出の時間は過ぎていたし、曇っていたので太陽の姿

もよく見えませんでした。ただ、僕は自分が上まで仲間の助けをもらいながらも、登れたことに達成感を感じて、ただただ嬉しかったのです。見渡して見ると景色や最高に美しかった。僕は思わずカメラを回して写真を撮り続けた。その時でした。

「あ、日の出だ～」と、その場にいたあっちこちの観衆からの声が出ました。太陽が雲と雲の間に姿を見せてくれました。そして、拍手が湧き起こったのです。とても感動的でした。全く知らない人たちが共感して、思いを一つになって喜びを分けあった。僕は今まで苦しかったことを忘れて、まだ生きていて、いい事があるのだ、実感した瞬間でした。スピリチュアルな体験でした。

振り返って考えると、神戸ダルクにつながって僕は楽しむに対する考え方が一番変わりました。その時に僕の頭に横切った NA の文献がありました。

「回復のなかで楽しむことについての考え方も変わっていく。いまの私たちはたとえば仲間と集うことや自然と調和をもっていくといったシンプルなことを心おきなく楽しめるようになった。人生の理解を自分なりに自由に深めている。」パーシクテキスト p169

最後に下山する時間になりました。僕は自分の手荷物を持ってくれた仲間にお礼をいいました。「ありがとう！ここから僕は自分で持って降りるよ！」そう言って仲間から手さげかばんを返してもらった。また雪が降り出した。僕たちは一緒に歩き出した。

「薬物を使っていた時には、使っていない人には分からない楽しみ方を私たちは知っているのだと思っていた。けれどもスピリチュアルであることによって人生を精一杯生きるようになったし、ありのままの自分自身にも、人生で成し遂げてきたことにも感謝できるようになった。回復が始まったときから、喜ぶというものは物質的なものから得られるのではなく、心の奥底から生まれてくることに気づくことができた。」パーシクテキスト p170

これからも、成長して、さらなる気づきへ



体験談 トシ

アディクトのトシです。私は刑務所に2回服役しました。問題の薬物は覚せい剤と大麻です。薬物の使用も止められず、どうにもならなくなっていた私は今回の逮捕の時、不思議とほっとしていました。薬物を使っていたことで周りの人に嘘をつき続けなければならなかったし、人も傷付け、自分をも傷つけていた。その事からようやく解放されると感じていたからかもしれない。人に嘘をつき続けることはとてもしんどい事だと思う。だからそうしなければならぬ相手は自分から距離を置いていった。自分の世界を小さくしていました。親を悲しませ家族に辛い想いをさせて、「いったい俺は何をしているんだ。」と思った。一回目の刑務所から出た時に薬物を止めようと思っていたのに、気づけば毎日の様に使用していました。その事から一回目の時と同じ様にして刑務所を出てはダメだと思ったけれど、何をどうすれば良いのか全く分からなかった。そんな時、拘留所にいた私に届いたのが一枚の手紙とパンフレットでした。それを見た時に「ここに行こう」と決めました。正直ダルクに入寮することに不安はありました。けれど毎月自分へ書いてくださった代表からの手紙に励まされ、一緒に同封していたニュースレターに希望をもらいました。約2年の受刑生活を終え、仮釈放の日、代表と仲間が迎えに来てくれました。その時、やっとダルクにつながることが出来たとほっとした事、昨日の事のように憶えています。ダルクに繋がってから早いもので2カ月が経ちました。日々のプログラムを少しでも前向きな気持ちで取り組むように心掛けています。思う様にならない時もありますが、前向きに取り組めた時は、色んな気づきを得ることが出来ます。そして何よりも楽しい。嘘をつく必要も格好つける必要もない仲間の中にいることでこんなにも自分の心が軽くなるとは思ってもいませんでした。これからも目の前の一日を前向きに一步步歩いていきたいと思っています。



震災の集い ぐっさん

今年 1 月 17 日に震災の集いのボランティアとして去年も続き、今年も参加することになった。去年は初めての参加で何をしたら良いのか分からなかったがスタッフの人たちの指示のもと竹灯籠を立てたり、ポンボリを線の入った場所に置いたり、ローソクを灯籠の中に入れたり前日の午後より用意して準備をして、当日の 1 月 17 日朝早く起き、ダルクの仲間と一緒に寒い中、スタッフの指示の通り用意した。その時には大勢の人たちが参加していて、各メディアの人達も色々作業をしていた。自分は最初に参加した時は刑務所を 1 月 14 日に出所したばかりでこの様な事をまさか自分が参加してボランティアをするとは夢にも思わなかった。ダルクに来て、プログラムを取り組んでいたのも他のボランティアの人達と一緒に震災の集いに参加できたのも被災者の事や当時のことはテレビで見て知っており、今年は去年と比べて規模が小さくなっていて、去年と同じ様に今年も前日に準備して当日は仲間と一緒に灯籠に火を灯し、被災者の家族や幼稚園児が書いたポンボリのローソクの火を灯した。この阪神淡路大震災が起きた時は刑務所の中にいてテレビのニュースや新聞で知って、すごい事になっていると思った。まさか自分が震災の集いに参加するとは思ってもいなかったが、ダルクに繋がりがボランティアをする事になった。阪神淡路大震災のことがあったのか刑務所を出所する時に福島沖地震の津波のことをテレビとか、新聞を見ていたので、刑務所を出所した時丁度覚せい剤を辞めるキッカケになればと思い、福島に仕事として除染作業の仕事に就いたので約 3 年除染作業をしていると被災者の家の片付けや道路の整備をしていた中には全国からボランティアの方々が多く来ていた。しかし自分は 70 歳になっていたの年齢制限に引っ掛かり仕事がなく仕方なく大阪に帰ってきたので、薬物関係者と会ったりした結果また刑務所に行くことになり、こんな人生は嫌になりダルクに繋がった結果、このようなボランティアの経験をできた事。また自分の母親の生まれが長田なので余計に力が入った。震災者のモニュメントの中に母親の姓の人が載ってないか探して見たがなかった。ダルクにいる以上また来年の震災の集いに参加したいと思います。



神戸ダルクの仲間達今年の抱負 2022

波に乗る よね次郎

回復する ポンド

自分の健康をもとに家族を幸せにする シモ

①自分の内面に目を向けて変えていくこと ②「楽しい」を追求すること

③資格取得に向けて全力を尽くして合格を目指すこと にっしん

任せられてた仕事を頑張る まーくん

焦らずゆっくり自分と対話する トシ

今年こそは自分の考えている事を実行すること 鍵やん

新しいことにチャレンジ。最初勉強をする神学校 ヒロ

常に自分の心に意識を向けて生活する タク

素直に生きる タカ

目標に向かって一步一步前進 ぐっさん

一日一年一生をかけての薬物との離別!! おっちゃん

朝ちゃんと起きる くりやん

1 日も早く社会復帰 タケ

国家試験合格を目指して一日 30 分勉強する時間を持つ! ゆう

耐え忍ぶ おれおれ

一日一日一歩ずつ、一歩ずつ自分の歩む道、回復の道を歩み続ける ジョー

昔のように戻りたい タバコの節煙 おやっさん

パソコン教室 かぎやん

自分自身初めてのパソコン教室であり、昔は電気屋のパソコンを興味本意で触ったぐらいで最初はなんやこれっていう感じで触ったぐらいだった。でもちょっとぐらいは触れるのがいいとちがうかなって思って、触ってみようと思ってパソコン教室をしてもらって思った。自分でもパソコンをやってみようと思って頑張ってやろうとして触ってみた。やっぱり頑張ってみたけどやはり難しいと思った。左手右手をパソコンにおいてタイピングをした。ローマ字がどこらへんにあるかを覚えたりして手を動かしていたら手がつるし、なかなか思うようにはいかなかった。でも、やるには頑張らないと何事も中途半端だとダメだと思うから若い人なら覚えたり、手の動き方やもっていくとも速いし自分みたいに年配には難しい。でもやるしかないと思う。でも自分にできるだけの事は頑張ろうと思って取り組みました。でも難しいよ。でも触っていくうちに、ちょっとは楽しくなっていくような気がした。時間はかかると思うけど覚えたいし、動かせるようになりたいと思い、頑張っている。頑張って教えてもらった。ちょっとはできるようになったら、なんでも楽しいと思いました。動かせるようになって、パソコンを買って文章も書いてみたい。誰かにも送ってみたいし、そんな夢を見て頑張ってパソコン教室に挑んでみてよかったと今は思っている毎日。タイピングトレーニングシートで手を動かしてローマ字もどの位置にあるかを頭の中に入れながら、練習をしているこの頃。時間があいた時は練習を楽しくやりたいと思う。楽しくわからないと途中で絶対にやらなくなる事はわかっているのだから毎日練習をやりたいと思っている。これからの時代はパソコンくらいさわれないとダメな時代だから、何事もあきらめないで自分の夢に頑張っていきたいです。



本気ではしゃいだスノーボー体験 ジョー

「うわっ！ やっぱ！これが銀世界かあ！」スキー場へ向かう途中、車の中から見えてきた一面の雪景色に思わず心の声ははじけた。なんの汚れもない大自然の雪の白さに本気で感動しました。その瞬間から、テンション爆上がり、気分上々、もう止まりません。ゲレンデに着く前からこんな感じです。僕のルーツが南国である事から、マリンスポーツは多少、経験があったものの、冬のスポーツは、ほぼ人生初です。そんな僕にスノーボードの話がきた時は、不安半分、ウキウキ半分の複雑な気持ちでした。そんな気持ちを、押し隠す様にクールを装っていた自分が恥ずかしいくらいに、誰よりもノリノリで楽しんじゃいました。大自然の中のスキー場というのは本来なら、かなり寒いはずなのに、がむしゃらにはしゃいでる僕は、気が付けば、汗だくになっていて、暑いやら寒いやらで、頭の中は迷子になっていました。40歳を過ぎたおっさんが、そこら辺の子どもよりも本気ではしゃぎました。スノーボードという、やばいものに出逢ってしまいました。



僕は刑務所から出てきたばかりです。この施設には刑務所を出たその足でつながりました。この施設長と仲間一人が出所の日を迎えに来て下さり、その日から今の僕の回復への道が始まりました。今までの僕は、初めて薬を使ったあの時から、がむしゃらに、はしゃぐ事や本気で笑う事、心から楽しむ事を全て置き忘れてきたのだと思う。そしてその代わりに作り笑い、とかを覚え、取り繕ってきたのかも知れない。

この施設の施設長から、刑務所の中にいる僕に届いた手紙の中の言葉に、「薬がなくても楽しいと思えるから、薬なんかなくても笑えるから、薬のない世界で幸せになろう…」という一言がありました。その言葉が刑務所の中にいた僕の希望への道標になり、そして、今、僕はここにいます。今、ここに、この道に僕はいるから、大自然の雪の白さにこんなにも感動出来たし、初めてのスノーボードでがむしゃらにはしゃげたし、楽しい事に心から大声で笑えるのかなあ…

今、僕は新しいこの道を歩み始めたばかりだけれど、今日も一日、明日も一日と一歩ずつ道標を胸に幸せに向かって、歩いて行く。この施設につながったその日から、いつも僕のとなりにいてくれる、同じ回復の道を歩んでいるかけがえのない仲間達と共に！



私の生きてきた道 にっしん

アディクトのにっしんです。薬物がどうにもならなくなり、わけのわからない状態で神戸ダルクに繋がってきました。2年半の月日が過ぎ、ボランティアでダルクのお手伝いをさせていただいています。

タイトル通り、自分の生きてきた道を述べたいと思います。私は、4人兄弟の長男で普通の家庭で何不十分なく育ちました。父方の祖父母の家に祖母が亡くなる小学5年の時まで休みの日は必ずと

いっていいほど泊まりに行き、今でも亡くなったときのことを覚えています。幼い頃から運動神経があまり良くなく、目立つほうではありませんでした。そんな僕でしたが、あることがキッカケで少し脚光を浴びることになります。当時好きだったマンガを真似てノートにマンガ(落書きに近い)を書いていて、そのマンガをクラスメイトが「見せて!」と言われました。そのとき、はじめて「自分」がココにいていいのだと存在を認めてもらったような感覚を味わったのを覚えています。しかし、中学校の3年間の記憶が全く覚えていません。目立ちもせず、部活動もテニス部に入っていましたけどやったりやらなかったりで、中学校は楽しくなかったです。

バツとしない学生生活を送ると思っていたのですが1人の友達がきっかけとなり、私の転機が訪れます。高校1年生の終わり頃、その友達から、ほぼ帰宅部だった自分を誘い、テニス部に入部することに。そして、その友達の一言(どんな言葉かは忘れてしまいましたが。)で、勉強を少し頑張ってみようと思いました。それから成績もそれなりに上がり、学生生活が充実しました。その時から、ある一つのキッカケや行動で色んなことが変わるんだと感じました。部活動の顧問の先生から「なんかよく分からんけど一所懸命やな」という一言が当時の私にとって大きな励みになり、こういう大人の人になりたいと思いました。先生の勧めもあり、大学に進学しました。大学に進んだら、勉強も大事だけど、他に何か自分が変わる何かをしたいと思い、ボランティアで子供たちとキャンプやスキーに行ったり野外施設の運営のお手伝いをしていました。友達も多く、大学4年の本当に充実して楽しかったです。薬物に出会うことなんて、これっぽっちも考えてもいなかったです。



大学2年生の時に自分が、性的マイノリティではないかと気づき、いろんな出会いの中で、ラッシュと呼ばれる薬物と出会いました。使い始めたときは、こんなものか、、、と。今思うと、間違いなく本命の薬物に繋がるキッカケになったと思います。就職活動が始まり、リーマンショックでなかなか決まらず焦っていた私ですが、教育実習で母校に訪れた際にお世話になった先生から「大学院に進んでみたら?」と言われ、勇気を振り絞って進学しました。進学後、性的マイノリティの出会いの中で危険ドラッグをはじめて使い、オーバードーズし意識朦朧の中、両親や学校の先生、友達に心配されたことを覚えています。もうこんな辛いこと一生な

りたくないと思いました。そんな矢先、すぐに私は覚醒剤と出会います。薬と出会ってから就職が決まるまでに3回ほどやり、場所や就職が決まったからやらないだろうと根拠もなく思いましたが無理でした。

少しずつ量も増え、薬だけでなくアルコールの量も少しずつ増え、過食も始まったりと、立派な?依存症者になってしまいました。仕事もやめ、ダルクに繋がって本当に思ったことは、今まで私を支えてくれた周りの人の有難さを感じています。

どれだけ恵まれた環境に自分がいたのか肌で感じます。優しさを今になって思います。

私が生きてきた道が、どれだけ友達や環境、勉強、職場が良くて充実していたとしても、薬物の前では私は完全に無力であると、、、。

今、ダルクのプログラムに繋がり、薬物を使ったことが問題ではなく、自分の生きづらさが問題であったと気づいてきました。薬物を使うことより自分の問題に取り組んでいくことが、大切ではないかと考え方も変わってきました。

仲間の中、回復にむけて一步一步ゆっくり進んで歩んでいきたいと思っています。

薬物を使わず、与えられた1日を過ごせていることに感謝します。ありがとうございました。



活動報告

12 月後半

西脇南中学校講演

クリスマス会

大掃除

おせち作り

大晦日餅つき

1 月

初日の出摩耶山登山

西宮恵比寿初詣

摩耶山天上寺

有馬温泉初風呂

平磯海釣り公園釣り大会

カラオケ大会

育苗用ビニルハウス作成

神戸ダルクパソコン教室開催 全10回

クラブハウス会議

長田消防検査

ひょうごコミュニティ財団訪問

もふもふネット参加

震災の集いボランティア参加

西宮オフィス契約

和歌山釣りプログラム

神戸国際医療交流財団会議参加

NA FD ワークショップ参加

2 月

節分豆まき&恵方巻き作り

神戸ダルク卒業生卒業証書授与式

スノーボードプログラム

ゴルフプログラム

バドミントン大会

雪かき作業(鳥取ログハウス)

消防訓練

避難訓練

定期開催

姫路家族教室 毎月第2土曜日

神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日

姫路無料家族相談 毎月第1火曜日

尼崎無料家族相談 毎月第1水曜日

垂水病院すまーぶ参加 毎週金曜日

保護観察所すまーぶ 毎月第4金曜日

ヨーガプログラム 毎月1回



近況報告・活動予定

すぐに次号を出せそうなくらい、仲間の原稿が集まりました。「きっと、5行くらいで終わるだろう」と思っていたら、みんな真剣に書いてきてくれて、これは申し訳ないと思いながら、入力しています。なので、次号 30 号は早めに発行できそうです。四月以降には助成金報告もありますし、2022 年の活動を報告していけそうです。

今年は寅年。甲子園から歩いてすぐのところに、新しい事業を設置する準備をしています。四月以降には具体的に活動報告ができるのではと思っています。

今年はコロナ次第になりますが、自助グループの方も、本格的に再稼働できそうです。回復で仲間と出会う旅って、回復に大きなアイテムを、仲間達に伝えていきたいです。自分もその中で楽しみたいですね。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」

年間購読のお願い

この広報誌「スレッシュホールド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年 6 回発行で 2000 円になります。お申し込みは FAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただければ幸いです。たくさんの方に読んでいただくように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。
個人会員は 1 口 3000 円(ニューズレター定期購読料を含む)からになります。刑務所内の方々との文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談

相談の内容についての秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘留所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは 24 時間 OK。 kobe.darc@gmail.com

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

伊藤 恵子様 伊佐 将人様 カトリック鈴蘭台教会様 島山 茂祥様 兵庫教育委員会事務局 森鼻 崇史様 岡 明子様
戸屋神社 宮司 山西 康司様 姫路第師寮 田中 朋子様 カトリック大阪大司教区カトリック仁豊野教会様 佐藤 喜三子様
千葉菜の花家族会 富井 達夫様 駒田 和彦様 富田 安代様

ご献品

西脇南中学校 戸倉 純子様 山崎 圭様 NPO 法人ヨーカ療法士会兵庫様 加古川学園様 則吉 伸一 ひとみ様
名嘉 信哉様 播磨社会復帰促進センター様 他匿名希望 1 名

(令和 3 年 12 月 6 日～令和 4 年 1 月 26 日到着分・順不同 ※送料・支援会費の方を含む)

寄付や献品のお願い

引き続き、非常に苦しい状況の中、お米などのご支援ありがとうございます。不思議なもので、お米のストックがあると、本当に安心します。生活習慣病を気にしながらも、回復初期は食べて栄養をつけて体力的に回復するところから始まります。コロナ。まだまだ予断は全く許さず、少し行動範囲も広がったものの、自粛生活は続いています。ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。たくさんありましたら、車で取りにいくこともできます。年末年始は刑務所から出てきた仲間たちが一般家庭のように暖かく正月を迎えることを目指します。回復の中で、普通の家庭の様に安心して家族でご飯が食べられる様な環境はもっとも回復支援に役に立ちます。外出が少ないため、ストレス発散には、どうしても食事が進んでいきます。心苦しいですが、ご協力をよろしくお願いいたします。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 653-0041 神戸市長田区久保町 7-7-18

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

仲間の中で正直に生きるということの意味を深く理解してきている仲間が増えていることが感覚として伝わってきます。嘘をつき続けると頭が狂って、周りが見えなくなり、嘘が本当になってしまう。という恐怖を目の当たりにすることが重なったという言葉聞いて、非常に考えさせられました。というよりも学ばされました。8 年ほど前にハワイのトムという仲間が僕にくれたメッセージで「誠実であれば堂々生きることができる。その先にはいつも仲間の愛がある」という言葉を思い出しました。

そんな言葉の上を生きている感覚は薬物よりも気持ちいいし、自分や仲間を愛することができます。

神戸ダルク ニュースレター Threshold (出発点) Vol.29

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田 隆規

印刷 プリントバック

〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1 部 100 円 年会費 2000 円

(送料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階